



今月の江戸しぐさ × 「半畳を入れる」

11月

半畳（はんじょう）とは、観劇で使用される座布団のことで、下手な役者にはこれを舞台に投げ入れて不満を表していました。

このことから「半畳を入れる」は人を批判、非難する、悪口を言う。という悪いしぐさとされていました。

江戸時代は、子供が論語（孔子の教え）を素読していたほど儒教の強い影響下にあり、現代と異なり道德観、倫理観が高い時代でした。

単に人の批判をしたり、悪口を言う事は恥ずべき事、慎まなければいけないこととされていました。（論語憲門編第十四31の解釈）

仕事で問題がある人がいた場合、悪口を言うのではなく、「そうかい、そういう問題があるんなら俺はこれを教えるから、おまえはこれを教えてあげな」や、「これは親方に相談してみようや」だったら粋ですね。

人の悪口、批判の多い人はだんだん卑しい顔になります。感謝の気持ちで人を褒めることの多い人はだんだん仏様のような顔になります。

（自戒をもって記しています）

悪口が蔓延する職場は暗くなり、暗い職場は患者に反映されます。「半畳を入れる」を、自戒とするおまじないとして、明るい職場にしていただければ幸いです。 ご活用をお願いいたします。

ちなみに、当組織の理事長は人が悪口を言っているのを聞くと悲しい気持ちになります。

※きちんとした指導を何回かし、改善が無い場合は、縁がなかったとあきらめ、現代と同じように辞めてもらっていました。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。6歳までに躰とともに習得すべき事とされていました。判断の基準は粋かどうかだったようです。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。



ロバート フレデリック ブラム  
Robert Frederick Blum  
(1857~1903)



日本をこよなく愛したアメリカ人画家。  
江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。